

# さいくうあと通信

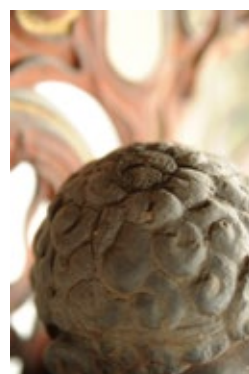
発行 明和町 斎宮跡・文化観光課  
 (明和町大字馬之上 945 番地)  
 電話 : 0596-52-7126 FAX : 0596-52-7133  
 E-mail : saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

## 新しい指定文化財の紹介～もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう木造不動明王立像～

志貴の西光寺に本尊として安置されている不動明王像が、新たに町指定有形文化財となりました。像は腕や足を除く部分を一本のヒノキ材で作られ、製作された当時は彩色がなされていました。製作上の特徴から、平安時代後期(12世紀頃)に製作されたと推定されます。三重県内では浄土教系の仏像が多く、密教系の仏像として希少な作品です。造形的にも優れ、かつ保存状態も良好で、今後も地元で大事に守られていくべき貴重な文化財です。



額に三本のしわを寄せ、左目を少し閉じる一方、右目を大きく見開いています。また、口は堅く閉じられ、牙を見せ、見るからに怖そうな表情をしています。



れんげ  
 頭頂部には蓮華を載せ、束ねた髪を左肩に垂らすなど、おしゃれな一面もあります。



### 不動明王とは…

不動明王は、みつきょう密教特有の仏様で、だいにちによらい大日如来が変身した姿または使者とされます。右手に宝剣、左手にけんさく絹索というロープのようなものを持っています。剣は欲望に負けそうになる人々の迷いを断ち切り、ロープは欲の海に溺れる人々を引き上げるためと言われています。一見すると恐ろしさを抱く姿は、ぼさつ菩薩のじひ慈悲深い優しさだけでは目が覚めない人々を救うため、時に厳しく叱ろうとするものです。

# 新しい指定文化財の紹介 ～蓑村虫送り～

<sup>みのむら</sup>蓑村虫送りが、新たに町指定無形民俗文化財となりました。

虫送りは、お米作りに悪影響となる害虫や疫病の退散消滅、<sup>ごこくほうじょう</sup>五穀豊穡を願って行われるものです。



## ーいざ、行進ー

蓑村では、自治会が中心となり毎年 7 月 13 日に行われています。昭和 61 年までは光雲寺前から鳥墓神社前までの間で行われていましたが、現在はとづか会館前から神社前までの約 250m を練り歩きます。夕刻になると、持ち寄った<sup>たいまつ</sup>松明に火をつけ列をなして神社を目指します。



各家庭で作られる松明 (左)  
完成した松明 (右)

## ー豊作の願いをこめてー

神社に到着する頃になると、しだいに辺りは暗くなり、燃え盛る赤い炎が青々とした稲を照らします。松明は参道脇の一ヶ所に集められ、火が燃え尽きると行事は終了します。農薬のない昔、害虫からお米を守ることは大変な苦勞だったのでしょう。農作業に対する当時の人々の強い願いが込められた行事が虫送りだったのです。



次第に暗くなる中、神社を目指す (右)  
松明はすべて南側に向けられる (左上)  
鳥墓神社に到着 (左下)



とづか会館前、集合! (上)  
太鼓・鉦・法螺貝を合図に、行事開始 (左下)  
次々に点灯 (右下)

## ー蓑村虫送りの始まりー

行事の起源は不明ですが、かつて使用されていたとされる太鼓には、安永三年 (1774) に上村に住んでいた北岡源右衛門光章が蓑村の安全を祈って太鼓を神社に寄付したと刻まれています (原文別掲)。つまり、蓑村虫送りは少なくとも 240 年以上続いていることとなります。願主の北岡氏は、戦国時代に蓑村にあった宇爾中村城の城主の子孫と思われ、蓑村にゆかりのある人物です。現在、町内で虫送りが行われているのは蓑村だけで、江戸時代以来の民俗文化を継承している重要な無形民俗文化財です。



(表)  
奉寄進  
うきみりましおんひらま  
産神両社御廣前  
かんじい せいせきほう きたおげんもん びあき  
願主 上村住北岡源右衛門光章  
(裏)  
有尔郷  
みのむらむらあむんしよかんのむら  
蓑村中安全諸願祈所  
あんけいせいのまのしょうかう  
安永三甲午歳正月

安永三年 (1774) 奉納の太鼓と銘文